Ⅳ．授業の概要（シラバス）

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学概論 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期

講師名 所　属	大坪 香織　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：看護師 19 年 久原 佳身　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：看護師 14 年
授業概要	成人・老年看護学では、身体的・精神的・社会的・性的に成熟し、社会の一員として中心的な役割を担い責任を担う立場にあり、多様な場で生活するあらゆる健康レベルにある人びとを対象としている成人期から、社会の変遷の中で生き抜き、人生の完結を迎えていく段階の人びとを対象としている老年期までを学ぶ。平均寿命１００歳といわれる今日のライフサイクルでは、成人期から老年期にわたる時期は長く、社会背景と個別な価値観に基づく生活者としての生活が連続し、その人の健康レベルや生活状況に影響している。また、成人期から老年期の移行については明確な区切りがなく、極めて個別的である。そのため、看護の対象を「子ども」「大人」の区分を基本に大人になる段階から人生の完結を迎える対象ととらえ、成人期から老年期のライフサイクルにおける成長・発達の特徴を学ぶ。また、大人の健康問題は、長い経過の中で複雑性や多様性を増し、多様な主観的健康観をうみだしている。その人にとって最適な健康を保持・促進させるための看護援助に活用できる理論や、地域の人々や他の専門職と連携・協働しながら住み慣れた場と治療の場を橋渡しする看護の役割を学ぶ。 母性看護学概論や精神看護学概論と並行して学ぶことでライフサイクルにおける性や心の発達の観点から人間理解を深めることができる。
科目目標	1. 成人期・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解できる 2. 成人期・老年期にある対象にとって最適な健康を保持・促進させるための看護に活用できる理論を理解できる 3. 成人期・老年期にある対象の療養の場の移行支援を理解できる
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論　成人看護学１ 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院 4. 中範囲理論入門―事例を通してやさしく学ぶ 日総研
参考文献	1. 1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2. 高齢社会白書 内閣府
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1. 1. 対象の理解 1) 身体的・精神的・社会的な特徴 (1) 青年期	講義	大坪 香織

2	(2)壮年期 (3)向老期 (4)老年期 2)発達課題の特徴 (1)青年期 (2)壮年期 (3)向老期 (4)老年期		
3			
4	2.成人期から老年期にある対象の生活の変化 1)働くことと生活 2)家族形態の変化、家族機能 3)その人らしい生活の継続 (1)生活リズムと生活習慣 (2)役割と社会活動・余暇活動 (3)家族と世帯構成 (4)就労と雇用 (5)収入・生計	講義	大坪 香織
5			
6	4.大人への看護アプローチの基本 1)生活の中で健康行動を生み、育む援助 (1)大人の健康行動のとらえ方 ①大人の学習 ②学習に基づく行動形成 (2)行動変容を促進する看護アプローチ 2)健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 3)人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4)チームアプローチ	講義	大坪 香織
7			
8	5.高齢者への看護アプローチの基本 1)老年看護のなりたち (1)老年看護学教育の発展 (2)老年看護の定義 2)老年看護の役割 (1)老年看護の特徴 3)高齢者の生活機能を整える看護 (1)日常生活を支える基本的活動 (2)食事・食生活 (3)排泄	講義	久原 佳身
9			

10	(4)清潔 (5)生活リズム (6)コミュニケーション (7)セクシュアリティ (8)社会参加		
11 12	6.成人・老年看護に有用な概念・モデル・理論の理解 1) エンパワメント 2)自己効力	講義	大坪 香織
13 14	7.看護実践における倫理的判断 1)医療の場における倫理的課題とそのアプローチ (1)治療の選択 (2)死をめぐるもの (3)高齢者差別 (4)高齢者虐待 (5)身体拘束 (6)高齢者の尊厳	講義	久原 佳身
15	8.成人・老年期にある人の療養の場の移行支援 1)療養の場の移行支援とは 2)療養の場の以降支援の必要性 ①医療制度改革と療養の変化 ②家族とコミュニティの変化 3)療養の場の移行支援の具体的方法 ①退院支援 ②退院後の支援	講義	久原 佳身
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者 大坪 香織

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学保健論 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期

講師名 所　属	武藤 雅子　　看護師　保健師 山﨑 のぞみ　嬉野医療センター 歯科衛生士 池田 貴子　　嬉野医療センター 認知症看護認定看護師 池ヶ谷 知美　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：19 年 久原 佳身　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：14 年
授業概要	成人・老年を取り巻く社会環境と生活の状況について保健統計や保健対策の変遷などから社会の動向や将来像をイメージしながら広く理解する。成人期・老年期にある人びとを取り巻く保健・医療・福祉システムの動向を理解し、健康レベル(健康の保持・増進及び疾病の予防)について学ぶ。具体的には政策に基づき地域で実施されている成人期・老年期にある対象の健康の保持・増進活動について学ぶ。地域で実施される公衆衛生や健康の保持・増進、疾病の予防のための保健活動の実際は地域保健論で学ぶ。
科目目標	1.社会構造の変化・超高齢社会に伴う保健・医療・福祉の場における課題が理解できる 2.保健活動の意義を理解し、健康の保持・増進活動について理解できる
テキスト	1.系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論　成人看護学１ 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
参考文献	1.国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2.高齢社会白書 内閣府
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.成人・老年を取り巻く環境と生活の状況 1)成人・老年を取り巻く環境 2)ライフスタイルの特徴 3)超高齢社会の現状	講義	池ヶ谷 知美
2	2.成人・老年における健康のとらえ方と健康支援の活動 1) 成人・老年の健康の状況 (1)生と死の動向 ①死因、死亡場所 (2)平均寿命・健康寿命 (3)健康格差 (4)疾病構造と有病率・有素率 (5)受療行動・受療の動向 (6)職業性疾病・業務上疾病	講義・演習	池ヶ谷 知美
3			

	(7)生活習慣病 (8)要介護高齢者の動向 成人・老年の健康問題とその予防		
4 5 6	3.生活と健康をまもりはぐくむシステム 1)保健・医療・福祉システムの概要 (1)保健・医療・福祉システムの動向 ①生活習慣病と健康管理の動向 ②高齢化対策の動向 ③心の健康に関する医療と保健の動向 (2)保健にかかわる対策 (3)医療にかかわる対策 (4)福祉にかかわる対策 2)保健・医療・福祉システムの連携 3)高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 (1)高齢者の生活と健康を支える多様な職種 (2)高齢者の生活と健康を支える多様な場 ①介護保険施設 ②地域密着型サービス (3)多様な場における看護	講義	武藤　雅子
7 8 9 10 11	5. 成人・高齢者のヘルスプロモーション 1)ヘルスプロモーションと看護 (1)ヘルスプロモーションとは (2)個人の主体的な健康づくり (3)健康増進のための環境づくり 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 (1)地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護 (2)職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護 3)高齢者へのヘルスプロモーションの考え方 (1)老年期にある対象のヘルスプロモーション (2)介護予防とヘルスプロモーション ①フレイルの予防 ②サルコペニア予防 ③PEM 予防	講義・演習	久原 佳身
12	6.高齢者の生活機能低下の予防 1)口腔機能と栄養状態の改善	講義	山﨑 のぞみ

<table>
<tr><td>13</td><td rowspan="3">10.認知機能低下の予防
1)認知機能および生活機能の評価
2)認知症の病態・診断・治療と予防
3)高齢者の認知機能低下を予防する看護
(1)認知症看護の原則と対応の実際
(2)認知症の予防と認知症高齢者の看護の実際
(3)認知症高齢者と家族へのサポートシステム</td><td rowspan="3">講義</td><td rowspan="3">池田 貴子</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td></tr>
<tr><td>8</td><td>終講試験</td><td>試験（評価）</td><td>単位認定者
久原　佳身</td></tr>
</table>

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学方法論Ⅰ 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期

講師名 所　属	中山　由理奈　　嬉野医療センター　診療看護師 井上　京哉　　嬉野医療センター　看護師 一番合戰　美智子　嬉野医療センター　看護師 川崎　恵梨　　嬉野医療センター　看護師 大坪　香織　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：19 年
授業概要	慢性期にあり長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象の理解と看護の特徴について糖尿病、関節リウマチ、心不全、肝硬変、慢性呼吸器疾患の看護を通して学ぶ。慢性期の特徴は臨床看護総論演習Ⅰで学習している。疾患についての病態、診断、治療については疾病論で学習している。看護の実際については教育と学習や成人・老年看護学概論で学習した成人教育理論、セルフケア、自己効力を想起しながら学ぶ。
科目目標	1. 慢性期にあり長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象とその家族の特徴を理解できる 2. 慢性疾患を抱え長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象に必要なセルフマネジメント支援を理解できる 3. 慢性疾患に対する看護の実際を理解できる 4. 長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象に対し必要な社会資源と他職種･多職種の連携・協働について理解できる
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学１ 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー／膠原病・感染症 医学書院
参考文献	1. 糖尿病食事療法のための食品交換表 文公堂
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1. 長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象とその家族の特徴 1)慢性疾患をもつ対象の特徴 2)慢性病とともに生きること	講義	大坪 香織

2	(1)自己概念の変化 (2)慢性病と役割 (3)病みの軌跡 2.長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象の看護 1)セルフケアへの支援 2)セルフマネジメントへの支援 3)生活の再構築への支援 (1)生活を再構築することの難しさ (2)主体的取り組みの促進 (3)教育的アプローチ (4)ソーシャルサポートの活用 (5)チームアプローチ (6)ピアサポート		
3 4	3.糖尿病をもつ患者のセルフケア支援 1)糖尿病をもつ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 (1)症状マネジメント ①血糖コントロール ②合併症予防 ③低血糖予防 (2)治療のセルフマネジメント ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法（経口糖尿病薬、インスリン療法） (3)生活構築への支援 ①自己血糖測定 ②フットケア ③セルフケア確立への支援 ④行動変容への支援	講義	大坪 香織
5	5.関節リウマチをもつ対象のセルフケア支援 1)関節リウマチをもつ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント支援	講義	大坪 香織

6	(1)症状マネジメント ①関節の腫脹、疼痛コントロール ②変形、拘縮 (2)治療のセルフマネジメント ①薬物療法 ②運動療法（リハビリ） (3)生活構築への支援 ①関節を守るための工夫 ②補助具、自助具の活用 ③障害受容への支援		
7	6.虚血性心疾患をもつ対象のセルフケア支援 1)虚血性心疾患をもつ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 (1)症状マネジメント ①胸痛・呼吸困難などの苦痛の緩和 ②合併症予防と早期発見 (2)治療のセルフマネジメント ①内服コントロール ②リハビリテーション (3)生活構築への支援 ①安静度に応じた日常生活への援助 (4)退院支援 ①病識の確認 ②セルフモニタリング	講義	中山　由理奈
8	7.慢性心不全をもつ対象のセルフケア支援 1)慢性心不全を持つ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント (1)症状マネジメント ①呼吸困難の緩和 ②心臓の負荷の軽減 (2)治療のセルフマネジメント ①薬物療法（利尿薬、強心薬）の援助 ②服薬アドヒアランスを向上させるため のマネジメント (3)生活構築への支援 ①食生活における自己管理 ②運動・生活活動における自己管理 3)受療行動に結びつけるためのマネジメント		

9	8.肝機能障害をもつ対象のセルフケア支援 1)肝機能障害をもつ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 (1)症状マネジメント ①さまざまな症状により苦痛を軽減するためのマネジメント (2)治療のセルフマネジメント ①検査への不安に対するマネジメント (3)生活構築への支援 ①食事のコントロール ②経過が長く寛解と増悪とを繰り返すことの不安に対するマネジメント (4)退院支援 3)膵炎をもつ対象の看護 1)膵炎をもつ対象の特徴 (1)急性膵炎 (2)慢性膵炎 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント支援 (1)症状マネジメント ①重症度に応じた援助 ②疼痛コントロール (2)治療のセルフマネジメント ①呼吸・循環モニタリング ②内視鏡治療を受ける対象への援助 ③治療による合併症予防 (3)生活構築への支援 ①安静時のセルフケア ②絶食・食事制限に対する援助 ③再発予防に対する支援 (4)退院へ向けた支援 ①生活習慣の改善（食生活・飲酒・喫煙）	講義	井上　京哉
10			
11			
12	8.慢性呼吸器疾患をもつ対象のセルフケア支援 1)慢性呼吸器疾患をもつ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント	講義	一番合戰 美智子

13	(1)症状マネジメント ①呼吸困難 ②咳嗽・喀痰 (2)治療のセルフマネジメント ①薬物療法 ②酸素療法 ③呼吸リハビリテーション (3)生活構築への支援 ①禁煙教育 ②活動・運動への支援 (4)多職種連携 (5)退院支援 ①在宅酸素療法		
14 15	9.腎不全をもつ対象のセルフケア支援 1)腎不全をもつ対象の特徴 2)症状コントロールに必要なセルフマネジメント (1)症状マネジメント ①尿量 ②浮腫 ③電解質異常 (2)治療のセルフマネジメント ①食事療法 ②人工透析 (3)生活構築への支援 ①食事、水分コントロール ②体重コントロール (4)多職種連携 (5)退院支援 ①シャント管理 ②社会復帰支援	講義	川崎　恵梨
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 大坪 香織

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学方法論Ⅱ 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	2 年 前期

講師名 所　属	院内講師　　嬉野医療センター　看護師 井手　千佳子　嬉野医療センター　がん化学療法認定看護師 坂本　陽子　　嬉野医療センター　看護師（放射線科看護師） 渡邊　依里　　長崎医療センター　看護師 岩谷　望美　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：9 年
授業概要	がんとともに生活する慢性期にある対象の理解と看護の特徴を学ぶ。腫瘍についての基礎知識は病理学で学んでいる。がん治療の 1 つである化学療法の基礎知識は治療論で学ぶ。がんに対する手術療法と看護は成人・老年看護学方法論Ⅲで学ぶ。この科目では日々進歩するがん医療の現状や医療の進歩を理解し、がんによる苦痛の緩和やがん治療に対する看護について学ぶ。また、がんの療養を入院や外来、在宅など多様な場で継続していくための支援について具体的な事例を通して学ぶ。
科目目標	1. がんと共に生活する対象の看護について理解できる
テキスト	1. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
参考文献	
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1. がん医療の現状と看護 1)がんを取り巻く現状 2)がん疫学とリスク要因 3)がんの予防と早期発見 4)エビデンスに基づく 2. がんの病態と臨床経過 1)がんに特有の病態と徴候 (1)がんの病態 (2)がんの診察・検査 (3)TNM 分類と病期分類 3. がんの治療	講義	看護師 院内講師
2			

3	1)がん治療の選択 (1)治療方針が決定されるまでの流れ (2)セカンドオピニオン (3)インフォームドコンセント 2)疼痛コントロール (1)がん疼痛の特徴 (2)がん疼痛の評価法 (3)がん疼痛に対する治療の基本 ①がん疼痛に用いられる鎮痛薬とその特徴 ②投与量と鎮痛効果 ③鎮痛薬投与の原則 4.がんの浸潤と転移 1)がんの浸潤・転移による病態 2)がん性胸膜炎の患者の看護 (1)苦痛の緩和 (2)胸腔穿刺の実際と看護 3)がん性腹膜炎の患者の看護 (1)苦痛の緩和 (2)腹膜穿刺の実際と看護		
4			
5			
6	4.がん患者の看護 1)がん患者の苦痛に対するマネジメント (1)身体的苦痛 (2)精神的苦痛 (3)苦痛のアセスメントとマネジメント 2)がん患者の心理的・社会的サポート (1)がん患者とのコミュニケーション (2)セルフヘルプ活動 (3)家族への支援 (4)社会的サポート ①がん患者の就労支援 ②経済的サポート	講義	看護師 院内講師
7			
8	5.がん治療に対する看護 1)薬物療法の流れ (1)がん薬物療法の特徴 (2)薬物療法の施行が決定されるまでの流れ (3)薬物療法の導入 (4)薬物療法の継続 2)薬物療法のレジメン（治療計画） 3)薬物療法の実際	講義	岩谷　望美
9			

	4)薬物療法における看護 (1)副作用と合併症 (2)治療継続と生活調整に向けたセルフケア ①骨髄抑制への対応 ②不快症状の緩和 ③食べる事の支援 ④脱毛によるボディイメージ変化への支援 5) 暴露対策		
10 11	5.がん治療に対する看護 5)放射線療法における看護 (1)放射線療法に対する準備教育 (2)効果的な治療を行うためのケア (3)治療の継続と生活調整に向けたケア (4)放射線療法における看護の実際 (5)放射線防護	講義	岩谷　望美
12 13	5.がん治療に対する看護 6)造血幹細胞移植と看護 (1)患者・家族の理解を促す援助 ①意思決定の支援 ②治療開始前の患者教育 (2)造血幹細胞移植前・中・後の看護 (3)ドナーの健康状態のアセスメントと援助 ①ドナー候補者の意思決定支援 ②幹細胞採取時のアセスメントと援助 骨髄採取（骨髄穿刺の看護含む） 末梢血幹細胞採取 (4)移植病室在室中の患者の援助 (5)移植関連合併症のマネジメントと援助	講義	渡邊　依里
14 15	5.がん治療の場と看護 1)外来がん看護 (1)外来がん看護を取り巻く状況 (2)外来におけるがん看護 (3)外来がん看護の役割と看護師の能力 2)がん患者の療養支援 (1)療養の場の選択肢とその特徴 (2)医療連携の実際 (3)治療費や療養費の支援 (4)がん相談支援センターとピアサポート	講義	看護師 院内講師
	終講試験	試験（評価）	単位認定者

			岩谷　望美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学方法論Ⅲ 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名 所　属	河上　ひとみ　　嬉野医療センター　集中ケア認定看護師 草場　友美　　嬉野医療センター　看護師 土井　千佳　　嬉野医療センター　看護師 溝口　未久　　嬉野医療センター　看護師 山田　大晟　　嬉野医療センター　看護師 中島　舞　　嬉野医療センター　看護師 馬場 亜希子　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験：看護師 17 年						
授業概要	急性期にあり急激に健康状態が変化する対象とその家族の看護について学ぶ。急激に健康状態が変化する状況としては、外傷・事故・中毒により生命の危機状態に陥る状況、急激に発症し重篤な症状を伴う急性疾患の発症により生命の危機状態に陥る状況、手術などの侵襲的治療を受けることにより生命の危機状態に陥る状況、慢性疾患の急性増悪により生命の危機状態に陥る状況がある。そのため、急激な健康状態の変化に対応する救急看護、生命の危機状態にありクリティカルなケアを必要とする対象とその家族の看護、手術を受ける対象の看護について学ぶ。救急看護は、突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動で、救急看護は全ての看護職が実施しなければならない看護である。そのため救急看護の役割を理解し、救急活動の実際を学ぶ。クリティカルなケアを必要とする対象への看護では、救命救急処置や急性疾患に対する看護を学ぶ。手術を受ける対象の看護では、開胸術、開腹術、開頭術による侵襲と合併症予防の看護を学ぶ。						
科目目標	1.急激に健康状態が変化する対象の特徴を理解できる 2.救急看護の役割と救急活動の実際を理解できる 3.クリティカルなケアが必要な患者とその家族の特徴と看護を理解できる 4.クリティカルな患者の病態と看護を理解できる 5.手術を受ける患者の看護を理解できる						
テキスト	1.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 3.系統看護学講座 別巻 救急看護学　医学書院 4.系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学　医学書院						
参考文献	1.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［1］ 成人看護学総論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［2］ 呼吸器 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［5］ 消化器 医学書院 4.根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 5.クリティカルケア実践の根拠　照林社 6.ICU・CCU 看護　医学書院 7.急変アセスメント　照林社 8.BLS：写真と動画でわかる一次救命処置　学研メディカル秀潤社 9.ALS：写真と動画でわかる二次救命処置　学研メディカル秀潤社						

評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照					
	筆記試験	○	技術試験		レポート	
	口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.急激に健康状態が変化する対象の特徴 2.クリティカルケア看護の特性 1)クリティカルケア看護とは 2)クリティカルケア看護の場 (1)ICU の種類 (2)ICU の構造と環境 (3)施設基準 3)看護師の役割と求められる能力	講義	馬場 亜希子
2	3.救急看護の概念 1)救急看護とは 2)救急医療体制 3)救急看護の場 4.救急看護体制と看護の展開 1)初期・第二次救急医療における対応 (1)看護体制 (2)看護の展開 2)第三次救急医療における対応 (1)看護体制 (2)看護の展開 3)院内急変時における対応	講義	河上　ひとみ
3	5.救急処置と看護 1)外傷への対応 (1)外傷時の救急処置と検査 (2)外傷患者の初療時の看護 2)熱傷への対応 (1)熱傷時の救急対応と検査	講義・演習	馬場　亜希子
4			

5・6	(2)熱傷患者の初療時の看護 3)中毒への対応 (1)中毒時の救急対応と看護 (2)中毒患者の初療時の看護 4)心肺停止状態への対応 (1)一次救命処置（BLS） (2)二次救命処置(ALS)		馬場　亜希子
7	6.クリティカルな状態にある対象の看護 1)呼吸機能障害への対応 (1)人工呼吸器の目的と影響 (2)人工呼吸器の種類 (3)人工呼吸器装着中の加温・加湿 (4)気管内吸引 (5)カフ圧管理	講義	剱持　葉子
8.9	2)循環障害への対応 (1)ショック・循環障害時の初療時の看護 ①生命を維持するためのケア ②症状アセスメント (2)モニタリングと検査 ①心電図モニター、十二誘導心電図 ②血行動態の評価 (3)循環動態を改善するためのケア ① 輸液管理（シリンジポンプ・輸液ポンプを用いた管理） 3)意識障害への対応 (1)意識障害のある初療時の看護 ①意識障害の評価 ②運動機能の評価 ③頭蓋内圧亢進症状のアセスメント (2)家族へのケア	講義	
10 11	7.周手術期における看護の実際 1)手術前患者の看護 (1)外来における手術前の看護 (2)術前検査結果のアセスメントと看護援助 (3)術前訓練の実際 (4)ボディイメージ変化に対する支援 (5)手術前日、当日の看護 2)手術後患者の看護	講義	草場　友美

	(1)麻酔、手術の影響と看護 (2)術後回復を促す援助の実際 (3)術後合併症の発生機序 (4)術後合併症の予防と看護		
12	7.周手術期における看護の実際 3)手術中患者の看護 (1)手術による身体への影響 (2)術前術後訪問と継続看護 (3)麻酔導入時の看護 (4)手術体位とその介助 (5)手術中・手術終了時（覚醒時）の看護 (6)手術室の環境調整	講義	土井　千佳
13	8.術後看護の実際 1)開腹術を受ける患者の看護 （1）消化管穿孔	講義	溝口　未久
14	8.術後看護の実際 2)開心術を受ける患者の看護 (1)大動脈解離	講義	山田　大晟
15	8.術後看護の実際 3)開頭術を受ける患者の看護 (1)硬膜下血腫	講義	中島　舞
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 馬場 亜希子

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学方法論Ⅳ 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期

講師名 所　属	秋永　紗希　　嬉野医療センター　看護師 小屋敷　ちひろ　嬉野医療センター　看護師 岩谷　香寿美　　嬉野医療センター　看護師 南川　栄子　　嬉野医療センター　皮膚排泄ケア認定看護師 久原 佳身　　嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:14 年 大坪 香織　　嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:19 年
授業概要	疾病からの回復過程にある対象とその家族の特徴を理解し、残存機能の活用とセルフケアの再構築を支援する看護を学ぶ。回復過程にある対象の特徴としては、疾病や外傷、手術などによって生命の危機的状況にある急性期から脱し、身体機能が回復に向かっている状態である。また、機能の回復と同時に生活の再構築、社会復帰に向けて進行する時期である。この時期は、健康状態としてはまだまだ不安定であり合併症や二次的障害を予防しながら社会復帰への準備を進める時期である。回復過程にある対象の看護は、疾患により身体構造や身体機能に変化をきたし、活動の制限や参加の制約が生じた障害のある人が自立・自律して社会生活を営むためにその人自ら意欲をもって、自分の能力を最大限発揮できるためのセルフケアの再構築ができるよう支援することである。そのため、入院中から退院後の生活を考えて支援することが重要である。具体的な看護については、運動器系、脳・神経機能障害、排尿・排泄機能障害により生活機能に変化が生じた対象とその家族の看護について学ぶ。
科目目標	1.疾病からの回復過程にある障害がある人の生活とリハビリテーションの考え方を理解できる 2.健康逸脱からの回復を促す看護の実際を理解できる 3.疾病からの回復過程にある対象が障害に応じた生活を送るための社会資源と他職種・多職種連携・協働について理解できる
テキスト	1.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［1］ 成人看護学総論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 4.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［7］ 脳・神経 医学書院 5.系統看護学講座 専門分野 成人看護
参考文献	
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.障害がある人の生活とリハビリテーション 1)障害がある人とリハビリテーション	講義	久原 佳身

	(1)障害とは (2)障害がある人の障害の認識過程 2)障害がある人とその生活を支援する看護の特徴		
2	2. 健康逸脱からの回復を促す看護 1)生活の再獲得を促す看護 (1)体力の回復促進、二次障害の予防 (2)セルフケア行動の確立の促進 (3)退院後の生活に向けた援助 2)患者の ADL 評価とセルフケアの再構築への援助 (1)ADL 評価尺度の活用 (2)ADL のアセスメント 3)退院後の生活に向けた援助	講義	
3			
4	3.運動機能障害（骨折・脊髄損傷）のある対象の生活の再構築 1)運動機能障害のある対象の理解 2)生活の再獲得への支援 (1)生活基本行動レベルのセルフケアの低下と再構築への援助 (2)社会生活レベルのセルフケアの低下と再構築への援助 (3)心理・精神的変化における援助 4)退院後の生活に向けた援助	講義	秋永　紗希
5			
6			
7	3. 脳・神経機能障害のある対象の生活の再構築 1)脳梗塞患者の看護 (1)患者の ADL 評価とセルフケアの再構築への援助 (2)退院後の生活に向けた援助 2)脳出血のある患者の看護 (1)患者の ADL 評価とセルフケアの再構築への援助 (2)退院後の生活に向けた援助 3)パーキンソン病患者の看護 (1)患者の ADL 評価とセルフケアの再構築への援助 (2)退院後の生活に向けた援助	講義	小屋敷　ちひろ
8			
9			
10	4. 排尿機能障害のある対象の生活の再構築 1)排尿機能に障害のある対象の理解 2)排尿機能障害のある対象の治療 (1)外科的治療	講義	岩谷　香寿美
11			

12	(2)内科的治療 2)排尿の調整機能の回復への援助 3)セルフケアの再獲得への援助		
13	5.排便機能障害のある対象の生活の再構築 1)排便機能に障害のある対象の理解（ストーマ造設） 2)排便の調節機能の回復への援助 3)ストーマ造設時の看護 4)ストーマのある対象のセルフケアの再構築への援助	講義	大坪 香織
14	5)ストーマ管理とケアの実際 (1)スキンケアの実際	講義・演習	南川　栄子
15	(2)装具の交換と管理		
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者 久原 佳身

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学方法論Ⅴ 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 後期

講師名 所　属	小森 康代　　嬉野医療センター　緩和ケア認定看護師 大坪 香織　　嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:19 年 久原 佳身　　嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:14 年
授業概要	終末期にあり人生の最期のときを過ごす対象とその家族の看護を学ぶ。終末期にある対象は病気の進行をくいとめることができず健康の回復が困難で病気とともに生きる状態にある対象である。同じ疾患をかかえた患者であっても、死に至る過程はその人や家族が何を大事に生きてきたか、個人のもつ価値観や人生観などによっても異なる。死は多様である。人生の最期のときを過ごす対象とその家族の看護ではその人がありのままの自分を受容しながらその人らしく人生を生き抜き、能き死を迎えることができる援助が必要である。講義では人生の最期のときを過ごす対象とその家族の特徴を理解し、死をめぐる医療の現状とケア、苦痛の緩和など看護の実際を学ぶ。
科目目標	1. 人生の最終段階にある人の身体的・精神的・社会的・霊的特徴について理解できる 2. その人らしい人生を送るための支援について理解できる
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学［1］ 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野　老年看護病態・疾患論 医学書院
参考文献	
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1. 人生の最期のときにおける医療の現状 1) クオリティオブライフの考え方 2) 人生の最期のときにおける医療とケアのあり方 3) 望ましい死 4) 人生最期のときにおける緩和ケア 2. 人生最期のときを過ごしている人の理解 1) 人間にとっての死 2) 全人的苦痛（トータルペイン）	講義	大坪 香織
2			
3	2. エンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアとは 2) 死のとらえ方 3) 死の迎え方の意向 (1) 意思決定支援と看護師の役割 (2) アドバンスケアプランニング (3) 生きる意味の探求への援助	講義	久原 佳身
4			
5			

6	(4)死の準備教育 4)死の受容への看護 5)高齢者の死亡場所の変化		
7 8 9	3.緩和ケア 1)緩和ケアの考え方 2)緩和ケアにおける看護の役割 (1)チームアプローチ ①チームアプローチの意義 ②チームアプローチにおいて求められる専門性 ③チームアプローチにおけるメンバーシップ (2)全人的ケアの実際 ①身体的ケア ②心理・精神的ケア ③社会的ケア ④スピリチュアルケア	講義	小森　康代
10 11 12 13	3.人生の最期のときを支える看護 1)臨死期のケア ①臨死期の概念とケアの目標 ②臨死期における全人的苦痛の緩和 ③死亡前後のケア ④急変時のケア 1)家族のケア ①家族ケアのありかた ②家族ケアの方法 ③グリーフと遺族ケア ④医療スタッフのケア	講義	大坪　香織
14	4)死後のケアの実際	講義・演習	
15	4.人生最期の時をむかえる場の広がり 1)療養の場の地域への移行 2)地域連携の実際 3)施設での看取り	講義	
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 大坪　香織

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護学方法論Ⅵ 1 単位(30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 後期

講師名 所　属	井上 雅子　　嬉野医療センター　看護師 渡邊 亜希子　嬉野医療センター　看護師 久原 佳身　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 14 年 岩谷 望美　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 9 年 馬場 亜希子　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 17 年
授業概要	高齢者障害、排泄機能障害による疾患の看護について学ぶ。また、治療を必要とする高齢者の特徴と看護の基本を学ぶ。
科目目標	1.感覚機能障害、免疫機能障害、内分泌機能障害、排泄機能障害による疾患の看護を理解できる 2.高齢者の健康問題の特徴と症状・検査・治療に対する援助を理解できる
テキスト	1.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［13］ 眼 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 成人看護学［14］ 耳鼻咽喉 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 4.系統看護学講座 専門分野老年看護病態・疾患論 医学書院 5.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
参考文献	
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1 2 3 4 5	1.感覚機能障害がある対象の看護 1)症状に対する看護 2)検査、診療時の看護 3)治療・処置時の看護 4)慢性中耳炎で鼓室形成術を受ける患者の看護 5)白内障治療時の看護 6)網膜剥離で治療を受ける患者の看護	講義	井上 雅子 渡邊 亜希子
6	2.高齢者の回復を妨げる特有の症状と看護 1)老年症候群 (1)老年症候群の特徴 (2)おもな徴候	講義	久原 佳身

7	①せん妄 ②脱水 ③やせ ④睡眠障害 ⑤寝たきり		
8 9	3. 高齢者の摂食嚥下機能に応じた看護 1)対象の理解 2)食事形態の工夫 3)食事介助の実際	講義・演習	岩谷 望美
10 11	4. 高齢者の認知機能に応じた看護 1)認知症高齢者の理解 2)認知症患者の看護	講義	久原 佳身
12 13	6. 手術を必要とする高齢者の看護 1)高齢者の周術期の看護 (1)高齢者の身体的変化 (2)高齢者の生活と QOL 2)手術前の看護 (1)手術前の評価 (2)手術前の患者・家族への情報提供 (3)手術前の訓練 3)手術後の看護 (1)手術が高齢者に与える影響 (2)術後合併症の予防と発症時の看護 4)退院に向けての援助 5)手術を受ける認知症高齢者の看護	講義	馬場 亜希子
14 15	7. 治療を必要とする高齢者の看護 1)薬物療法を受ける高齢者の看護 2)検査を受ける高齢者の看護 3)外来を受診する高齢者の看護	講義	久原 佳身
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者 久原 佳身

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	成人・老年看護過程演習 2 単位(45 時間)	授業 形態	講義・ 演習	開講 時期	2 年 後期

講師名 所　属	馬場 亜希子　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 17 年 久原 佳身　　嬉野医療センター附属看護学校　教員　実務経験:看護師 14 年
授業概要	手術によって急激に健康状態が変化し、生命の危機状態にある対象の看護について事例を用いて展開する。生命の危機状態に陥る侵襲的治療である麻酔、手術の影響と既往歴、生活習慣の影響をふまえ対象に起こりうる術後合併症を予測し、予防するための看護について考える。また、手術により形態や機能の変化が身体や生活に与える影響についても考える。看護を導くために臨床推論の基礎、臨床看護総論演習Ⅰ、看護過程で学んだ臨床判断を活用し考える。周手術期の生命維持、治療処置別の技術として手術後の患者を想定し、手術後の全身状態の観察について学ぶ。また、クリティカルケアが必要な対象は膀胱留置カテーテルやドレーンなどのルート類が装着されており、呼吸器管理が必要な対象は気管内吸引が必要となる。そのため、クリティカルケアに必要な看護技術について学ぶ。 齢者は加齢に伴う身体的、精神的機能の変化が疾病の発病と経過に影響を及ぼす。そのため、老年期に多い疾病の病態、症状、診断、治療、看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。
科目目標	1.対象の特徴をふまえ健康問題に対する看護の方法を導くことができる 2.治療処置別の看護技術を身につけることができる
テキスト	1.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2.系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 3.NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 4.根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 5.系統看護学講座 専門分野　老年看護病態・疾患論 医学書院
参考文献	1.これなら使える看護診断 医学書院 2.写真でわかる臨床看護技術② インターメディカ 3.改訂第 3 版老年医学テキスト 社団法人日本老年医学会 4.生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 5.生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	技術試験		レポート	
口頭試問		授業態度		出席状況	

授業計画

回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師
1	1.急性期にある対象の看護過程 1)手術による生命の危機的状況 (1)麻酔の種類と影響 (2)既往歴、生活習慣と疾患、手術への影響 2)手術からの回復過程と看護	講義	馬場 亜希子
2			
3			

4	1.急性期にある対象の看護過程 3)事例の状態を示す測定結果、検査結果と解釈 4)術後合併症の予測 5)看護目標の設定 6)合併症予防の援助	講義・演習	馬場 亜希子
5			
6			
7			
8	2.周手術期の生命維持にかかわる看護技術 1)生命維持に関わる看護技術 (1)手術直後の観察、管理 ①意識レベルの把握 ②呼吸器合併症予防のための観察、管理 ③循環器合併症予防のための観察、管理 ④苦痛の緩和（疼痛の観察）	演習	馬場 亜希子
9			
10	2.周手術期の生命維持にかかわる看護技術 2)生体機能管理、治療処置時の援助 (1)輸液ポンプ、シリンジポンプを用いた点滴静脈内注射の輸液管理（実技）	講義・演習	
11	2.周手術期の生命維持にかかわる看護技術 2)生体機能管理、治療処置時の援助 (2)ドレーンの管理 閉鎖式（胸腔ドレーン含む）・開放式 (3)A ライン測定 (4)膀胱留置カテーテル管理	講義	
12			
13	2.周手術期の生命維持にかかわる看護技術 2)生体機能管理、治療処置時の援助 (5)気管内吸引	講義・演習	
14			
15	3. 生活機能に障害のある高齢者の看護 1)第１段階アセスメント (1)加齢に伴う機能の変化と疾患による日常生活への影響	講義・演習	久原 佳身
16			
17	2)第２段階アセスメント (1)身体的･精神的･社会的側面から看護問題となる要因を特定する。		
18			
19	3)関連図・看護診断の特定		
20	4)介入計画 (1)もてる力、強みを活かす援助 (2)二次障害を予防するための援助 (3)社会資源の活用	講義・演習	
21	5)援助の実際	演習	
22	6)援助の評価	講義・演習	

23	終講試験	試験（評価）	単位認定者 馬場 亜希子